

楽しかった「わくわく集会」

今朝の24日(木)の集会は、企画委員会が考えたクイズ大会をみんなで楽しみました。クイズ大会に向けて、企画委員会の子供たちがリサーチをして、問題作りをしてくれました。問題を出すたびに、○と×に仕切られた体育館のフロアーを、時間以内に移動するというものでした。問題は、Q1:校長先生からの学校だよりは「おびにしもっと『どきどき』通信」である Q2:帯西の校舎の色は、元々チョコレート色だった Q3:荒木校長先生は、15代目の校長先生である Q4:帯山西小学校ができる前は、マンションが建っていた Q5:帯西の先生の数、40人以上である という5問の問題でした。クイズ大会は、司会者の二人が、全校皆のテンションを挙げてくれて大盛り上がりでした。また、出題の仕方もテンポよく楽しい雰囲気の中で、活動することができました。



クイズ大会後の子供たちの感想です。5年生の子供は「『🍀 帯西グリーン』の心が伸びました。みんなで楽しくクイズに参加することができたからです。」と述べ、2年生の子供は「『🍅 帯西レッド』の心が伸びました。わけは、一生けん命考えて、2問正解位はできたからです。」と述べました。

企画委員会の皆さん、企画から準備までありがとうございました。とても楽しい一日のスタートを切ることができました。

認知症サポーター小学生養成講座～4年生～

今日は、4年生が「ささえりあ熊本」から講師を招き、認知症サポーター養成講座を受講しました。4年生は総合的な学習の時間の中で、「わくわく通信103号」で紹介した通り「福祉」を学んでいます。そこで、高齢者や障がい者の方々とのかかわり方を学んでいきます。今回学んだ「認知症」の方々とのかかわりは、これから高齢化社会を生き抜いていく子供たちには、とても貴重な経験になると思います。講座の中で、「老化は体験行動の一部を忘れること」「認知症は体験行動の全部を忘れること」の違いと、認知症の方には「優しく答える」「しっかりと答える」「安心させる」ということが大事だということも併せて教えていただきました。



受講した子供たちは、「おじいちゃんやおばあちゃんが困っていたら優しく笑顔で接しようと思いました。」「私は前までは『すぐ忘れるじゃん!』と怒りっぽく言っていたけれど、この講座で優しく『大丈夫だよ。おばあちゃんの気持ちわかるよ』など優しい言葉かけが大切だなと思いました。」「認知症の方は、忘れやすくても心や感情はとても豊かなので、少しでも優しい声掛けやサポートをしたい。」と感想を述べていました。このような豊かな心で、みんなが安心して暮らせるまちづくりが必要になってきますね。社会福祉協議会の皆様のご協力にも感謝します。